

2. 事業の概要と成果

<p>(1) 上位目標</p>	<p>①西部地域（ホブド県ならびに近隣4県）の医療体制の充実と患者救済 ②公衆衛生指導による口腔内の衛生状態の改善と感染症の予防 対象医療分野： 口腔疾患特に口腔障害児への手術治療法等技術移転中心</p>												
<p>(2) 事業内容</p>	<p>① 言語訓練センターの工事は終了した。手術室の改修工事は遅れ気味であるが、資材発注済で8月中旬には完成予定である。 病院のインフラ整備更新が進行中で その工事終了後 取り掛かると連絡を受けている。</p> <p>② 寄贈した大型機器（手術台、麻酔器、電気メス等）は船便で5月27日ウランバートルに到着。若干の留め置き期間はあったものの、免税手続きを経て、6月14日にホブド県病院に搬入された。この業務のため、ホブド病院の副院長がウランバートルに来て対応、運送業務手配などを当協会コーディネータ、オユン氏とともにいった。</p> <p>③ 上記機器のうち改修後の手術室に設置予定のものは保管中である。 贈呈式を8月21日に予定しており、その後使用する予定である。</p> <p>④ 消耗品等当初2回に分けて購入を申請していた物品は薬剤を除き、2回分を計画的に発注、航空便手荷物扱いで搬入した。ミアット航空の好意により、30%offの料金で対応していただいた。この費用は機材運搬費として計上している。</p> <p>⑤ 現地医療者へのウランバートルにおける事前研修は3日間行われた。ホブドからの口腔外科医の参加は1名であったが、ウランバートルの専門家も同席することで 今後のウランバートルの専門家がホブドでの指導に従事するにあたり、効果が発揮されるものと考えた。</p> <p>⑥ ホブド県では手術前診断、手術への立ち会い、介助を通して口腔外科医への技術移転は順調に進んでいる。（別紙）</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>診察</td> <td>患者数</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>手術数</td> <td>口唇裂一次手術</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>口蓋裂一次手術</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他の手術</td> <td>9名（口唇裂・口蓋裂2次手術、顎裂部腸骨移植、顎骨腫瘍、炎症）</td> </tr> </table> <p>口唇裂一次手術に関する技術指導を重点とし、それ以外の高度な手術に関しては見学の形で、口腔外科医、手術室看護師（日本での介助医相当）、麻酔医、看護師のチーム治療の実地体験を通して治療への意欲喚起を目指した。手術数欄その他の手術は第一回目の技術指導には高度であるが、技量のある日本人医師団への治療を現地病院からの要望に応える形で実施した。</p> <p>⑦ 口腔感染症予防のパンフレットならびに口唇口蓋裂治療のパンフレットをモンゴルに合わせて作成し直し、翻訳は、当協会コーディネータとモンゴル母子病院の専門家の協力で作成。それぞれ200部印刷して持参した。同時に配布した歯ブラシを用いて入院患者の家族を中心とした聴衆に講演を行った。医療関係者の評判もよく、今後独自に活用したいと申し出があり、冊子ならびに歯ブラシ、ボールペンセットを託してきた。</p>	診察	患者数	21名	手術数	口唇裂一次手術	2名		口蓋裂一次手術	2名		その他の手術	9名（口唇裂・口蓋裂2次手術、顎裂部腸骨移植、顎骨腫瘍、炎症）
診察	患者数	21名											
手術数	口唇裂一次手術	2名											
	口蓋裂一次手術	2名											
	その他の手術	9名（口唇裂・口蓋裂2次手術、顎裂部腸骨移植、顎骨腫瘍、炎症）											

<p>(3) 達成された効果</p>	<p>① 手術用主要機材供与： 口唇口蓋裂手術器具の贈呈により、常時、口唇口蓋裂手術の施行が可能になる。なお、手術台、麻酔器、電気メス、そして吸引器に関しては現地に届いていたが、手術室の設備が遅延していることより、いずれも第一次派遣では使用していない。(直接裨益人数年間10名)</p> <p>② 技術移転： 現地医師と共同で手術を行うことにより、口唇口蓋裂の手術器具の使用方法や術式に対する理解が深まった。次回の9月までの間、ウランバートル専門家による指導がなされる予定である。なお、手術後の管理に関しても、麻酔医と連携し、良好に実施されている。(直接裨益人数4名：ホブド県病院口腔外科医 Dr. NANJIDMAA、ホブド県病院麻酔医、口腔外科看護師男性1名、一般看護師1名。)</p> <p>③ 知識の伝授： 医療従事者；口唇口蓋裂の講義により、従来やや曖昧であった口唇口蓋裂の基本的知識と手術方法についての理解が深まった。(直接裨益人数1名：ホブド県病院口腔外科医 Dr. NANJIDMAA。間接裨益人数3名：ホブド県病院看護師2名。他院内スタッフ10名) 一般人；公衆衛生予防について、口腔感染症のメカニズムや全身への影響について講習を行ったことより、口腔と全身との関わりや予防に対する理解が得られ感染予防の具体的な対策に対するモチベーションが高まった。(直接の裨益人数12名)</p> <p>③ パンフレット・歯ブラシ・ポールペンセット： 口腔感染疾患についてのわかりやすい講義の中でも配られた他、ホブド県病院病棟看護師(5名)、ウランバートルから同行した口腔外科医ら(4名)からも所望する声があがった。UB口腔外科医には50セットを託し、国立母子病院での配布で啓蒙活動に役立てることとなった。ホブド県病院長には50セット分を2回目の派遣までに間、必要に応じて配布・活用してもらうよう依頼した。医療者ではないが通訳者も熱心に目を通しており、通訳をする上での知識習得の要望にも応えるものと思われた。(直接裨益人数20名+配布依頼100セット分の100名)</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>◆日本人専門家帰国後にウランバートルの専門家を派遣し、現地口腔外科医への継続的な技術移転を実施する(母子病院口腔外科医が担当)</p> <p>◆8月に当協会常務理事の夏目がホブド県病院を訪問し、機材開封と設置を確認し、贈呈式を行う。この際基本的な使用方法の伝授を行う。</p> <p>◆言語訓練センターの工事が終了したので、言語訓練法の指導を現地責任者のアリヨナ学部長がホブド県病院に出向き対応する</p> <p>◆第二回目の派遣を9月に実施すべく準備をしている。6月派遣の際は麻酔医への技術移転の機会が少なかったため、新規導入の麻酔器、気化器の使用法、患者の全身管理について技術移転ならびに意見交換を行う。</p> <p>◆一般人を対象とした口腔感染症の啓発活動への参加者が少なかった点については現地医師らが患者に個別に指導することとした。口腔感染症予防のためのパンフレットならびに口唇口蓋裂の治療法についてのパンフレットはホブド県、ならびにウランバートルの母子病院、健康科学大学に配置して活用する。好評であることから追加印刷も視野にいれている。</p>